助成金・セミナー情報

他にも多くの助成金やセミナーがあります。詳しくは、メイトム宗像のホームページ⇒その他リンク一覧をご覧ください。窓口でのご相談も受け付けています。

メイトム宗像　検索

助成金　まちづくり分野

●公益財団法人 コメリ緑育成財団「第 25 回コメリ緑基金助成」

【対象】美しいふるさとづくりを目的とし、所定の条件を満たす団体・活動（個人での申込み不可）

【募集期間】～ 10 月 31 日（金）※消印有効

【問合せ】公益財団法人コメリ緑育成財団 事務局
TEL：025-371-4455　FAX：025-371-4151
E-mail：midori@komeri.bit.or.jp

助成金　「森づくり活動」・「環境教育活動」分野

●「花王・みんなの森づくり活動」2014 年助成

【対象】森づくり活動に関わる団体、環境教育活動に取り組んでいる団体（国内での活動に限る）

【募集期間】～ 10 月 19 日（日）※消印有効

【助成金額】1 年目 50 万円（2 年目 50 万円、3 年目 25 万円）を上限に助成

【問合せ】公益財団法人都市緑化機構
花王・みんなの森づくり活動助成事務局
TEL：03-5216-7191　FAX：03-5216-7195
E-mail：midori.info@urbangreen.or.jp

助成金　社会福祉分野

●一般社団法人 生命保険協会 元気シニア応援団体に対する助成活動

【対象】高齢者を対象にし、所定の要件を満たす団体

【募集期間】～ 10 月 15 日（水）※消印有効

【助成金額】1 団体当り上限額 15 万円

【問合せ】一般社団法人 生命保険協会「元気シニア応援活動」事務局
TEL：03-3286-2643　FAX：03-3286-2730

助成金　まちづくり分野

●財団法人 トヨタ財団 2014 年度国内助成プログラム
「未来の担い手と創造する新しいコミュニティ―地域に開かれた仕事づくりを通じて―」

【対象】生活圏である市区町村自治体以下の範囲を主たる活動地として実施されるプロジェクトが対象ですが、市町村境や県境、他地域との連携による取り組みも対象

【募集期間】～ 10 月 31 日（金）15：00 締切

【助成金額】1 年間プロジェクト：上限 300 万円 / 件
2 年間プロジェクト：上限 600 万円 / 件

【問合せ】財団法人 トヨタ財団
TEL：03-3344-1701

説明会　助成情報を手に入れよう！

●平成 26 年度「NPO・ボランティア助成プログラム合同説明会」参加者募集のお知らせ

【対　象】NPO・ボランティア団体・行政・中間支援組織の皆さん

【日　時】9 月 25 日（木）18：00 ～ 20：30（終了後、名刺交換タイム）

【会　場】アクロス福岡 会議室 608（福岡市中央区天神 1-1-1）

【参加費】500 円（当日徴収）

【定　員】60 名程度（定員になり次第、締め切ります）

【応募方法】ハガキ・メールに、①氏名②郵便番号③住所④電話番号⑤所属を明記頂くか、参加申込書を記載の上、FAX にて応募下さい

【問合せ】公益財団法人 福岡県地域福祉財団　振興課
TEL：092-582-2396　FAX：092-582-2415
E-mail：k2@fp-kikin.or.jp

今秋、ルックルック講座が新しくなります！

「みなさんの学びたい気持ちに応えます！」をコンセプトに、身近で手軽な学びを提供するルックルック講座。現在は、年間 6,000 人以上の方が利用し、様々な学びに活用しています。

今秋、このルックルック講座が新しくなります。

新たな講座の追加や既存講座の内容見直しを行い、「健康」「福祉・介護」「年金・保険・税」「医療」「食事・食育」「子育て・教育」「環境」「歴史」「趣味・教養」「まちづくり」「市の制度」とバラエティ豊かな 150 以上の講座で、再スタート。

講師も、市職員、大学の先生の他、企業や NPO・市民活動団体と様々。

みなさん「ルックルック講座」を今後の活動に活かしてみませんか。

詳しい内容は、新パンフレット及び Web 版をご覧ください。

川柳コーナー

退職後　できることから　はじめよう　九州男

チホウの時代　歳を忘れて　若作り　年齢不詳

「ふらぐ」は常時、皆さんからの情報を募集 !!

【送信先】munakata@mcforum.jp「むなかた市民フォーラム情報係」

市民活動中のひとコマや、想い出、川柳などをお寄せください。
〒住所、氏名（ペンネーム可）、電話番号を明記の上、ご応募ください。

発　行/宗像市市民活動・NPOボランティアセンター
住　所/福岡県宗像市久原180 メイトム宗像
電　話/0940(36)0311　ＦＡＸ/0940(37)4101
編　集/むなかた市民フォーラム
ＵＲＬ/ http://kouryuukan.com
Eメール/meitomu@city.munakata.fukuoka.jp
窓口時間/8:30～17:00
休 日/第1土曜日
日曜日、祝日

むなかた NPO ボランティア情報紙

ふらぐ No.3

2014年9月発行

テーマ「お金（かね）」

どう「お金」を集めるのか、を考える。

「ふらぐ」は、NPO・ボランティア・市民活動の実践者を対象とした情報紙として、活動に役立つ情報をお伝えします。
今回は「お金」がテーマ。「どう『お金』を集めるのか」を考えてみました。
うまく活動を広げるためのヒントをみなさんにご紹介します。

ふらぐの由来

「ふらぐ」は、旗印。情報源の発信、この旗の下に集い繋がろう！という意味が込められています。

補助金から自立へ

宗像市の花「カノコユリ」。宗像市は日本でも数少ないカノコユリの自生地ですが、都市化や里山の荒廃で失われつつあります。しかもみつかった宗像固有種の開花球が出来るまで、4年が必要。そんな中、団体がどのように資金面からの自立を考えているのか、自立に欠かせない「お金」の視点から、吉田博美さん（代表）と大庭義材（よしき）さんに話を聞きました。

むなかた協働大学の卒業生11人で始めた研究会のメンバーも今では40人。宗像固有種のカノコユリの研究、栽培技術の習得、増殖に取り組んでいます。

Q1 平成２６年度人づくりでまちづくり事業補助金を受けて行った薩摩川内市甑島（こしきじま）（鹿児島県）の視察について教えてください。

カノコユリは育つのに年数がかかるだけでなく、環境条件がとても難しい花です。研究会では、甑島でのカノコユリ自生地の環境や球根の生産状況について視察しました。カノコユリ自生地では野焼きが行われ、日照や水分バランスもよく、数多くのカノコユリが花をつけていました。甑島と条件は違いますが、工夫によって宗像でも栽培技術が活かせると思われました。市の花としている薩摩川内市は、カノコユリを観光資源として活かすため、パンフレットやバス停など、あらゆるところにカノコユリの絵を載せていて、行政との役割分担ができていました。

Q2 具体的に自立に向けた取り組みを教えてください。

今の研究会運営は、会費と寄付と補助金で行っています。宗像市の花を育てる必要性と、カノコユリであふれるまちにしたいという志を伝えることで、今年度既に200人もの人から寄付を頂きました。

また、3年後に開花球ができ、販売する時を心待ちにする市民が増えるよう、広報活動にも力を入れています。先日も新聞社に取材を依頼し、掲載されるとさっそく問い合わせがありました。新聞などは広報力が大きいです。これが、販売に繋がり、栽培する会員や団体の自立につながります。また広報活動は、団体の広報だけではなく、「市の花　カノコユリ」の宣伝にも一役かっています。

しかし、団体の力だけでは市民への周知は足りません。薩摩川内市のように宗像市にも、もっと市民に知ってもらえるようカノコユリを使って欲しい。栽培管理は研究会が担当します。市と団体の双方の力が合わさって、初めて宗像市がカノコユリあふれるまちになります。

吉田さんは、研究会が球根を販売する時、どのようなしくみにするとやりがいを感じて栽培してもらえるのかまでの話をしてくれました。大庭さんのきめ細かい様々な視点からの視察報告からは、技術だけではなく、事業としての取り組みの大きさを感じ、吉田さんの力強い話からは、市の花を育てる責任を感じとりました。

宗像カノコユリ研究会は「広報力」で多くの共感と寄付を得ています。そしてこれからの球根販売で、補助金から自立につなげるのです。

問合せ　宗像カノコユリ研究会　Tel：0940-36-3054（吉田）

ちょっとお役立ち情報!!

NPO・市民活動団体の

資金づくりを考える

NPO・ボランティア活動をする中で、多くの団体にとって資金についての悩みはつきものではないでしょうか。今回は資金調達に注目し、団体の基本的な収入源のおさらいと、近年話題になっているクラウドファンディングについて解説します。

理解しよう！ NPO の収入源

一般的に NPO などの団体の収入源は、おもに右表の5種類からなります。多くの団体はこれらを組み合わせて運営しているのではないでしょうか。

注目したいところは、安定的な収入源となる会費を取っているか。また、寄付金や協賛金を多く集める工夫も支援者を増やすためには大事なことです。その根底にあるのは、「共感」です。補助金・助成金は、市・県・国と幅広くあります。また、財団や多くの企業も助成金を出しており、それらの募集テーマも様々です。必要に応じて資金調達をする術を身につけると、活動の幅も一段と広がります。

メイトム宗像の HP から様々な補助金助成金情報が見れるよ♪

ただし、資金調達の時に、「目的」を見失ってはいけません。そもそも「何のための資金調達なのか」。それはみなさんが掲げているミッションやビジョンの実現のためです。資金調達はあくまで手段であり、それで何を成すかが大事です。

NPO の収入源

みなさんの団体は、どんな組み合わせ？

種　類
● 会費
● 寄附金・協賛金
● 事業収入
● 補助金・助成金
● 委託費

今注目の「クラウドファンディング」という手法

近年、インターネットの普及によりクラウドファンディングという手法が登場しました。クラウドファンディングとは、インターネットを通して不特定多数の人から資金を募ることを言います。群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語で、製品開発やクリエイティブ分野、NPO 活動でも活用されています。

国内のクラウドファンディングのサイトはいくつもあり、中にはテーマ型や地域に根差したもの、サポートすると商品やサービスが受けられるサイトまで幅広くあります。どなたでも無料で利用できます。目標金額に達した場合のみ、集まったお金のうち 17 ～ 20% の手数料をクラウドファンディングの運営会社に支払い、残りのお金が振り込まれるという仕組みです。インターネットを利用することで、不特定多数の人からの応援を受けやすくなるため、企画の内容次第では有効な手法ではないでしょうか。

国内のクラウドファンディング（抜粋）

種　類	特　色
Ready for レディ フォー	日本初のクラウドファンディング 様々なプロジェクトが成立
kibidango きびだんご	プロジェクト成立後、サポーターは商品・サービスをゲット
FAAVO ファーボ	地域貢献・地元応援型 共に地域活性を実現できる
Camp fire キャンプファイヤ	日本最大級のサイト 総額 4.2 億円以上を集めている
MotionGallery モーションギャラリー	クリエイティブなプロジェクトが多く、ファンから直接募る

事例　対話の場にゲストを呼んで、地域をもっと活性化したい！（FAAVO 岡山を利用して達成）

Dialogue for Okayama
代表　長野 紘貴

達成金額
303,000 円
目標金額　300,000 円
サポーター　51 人

「地域を面白くしたい！」という想いで、社会人と学生を交えての朝活（楽しく話す場）を友人と始めました。また、定期的に「地域の未来」を考える対話の場を創りました。対話を重ねることで、多種多様な参加者が集まり、つながりました。今回は新たに対話で地域の未来を共創するための「対話の場」という試みをクラウドファンディングを利用し、実施しました。

代表の長野さん

目的　人の可能性を最大限生かせる「共創する社会」を目指す

用途　会場の使用料、必要な備品（模造紙、マジックペンなど）、謝礼

私がクラウドファンディングで、意識したことは「恩送り」。そして、常に問い続けることです。目的やビジョンを考えては自分で問い、ときには仲間と対話し、想いを共有して明確にしていきました。これからも応援してくれる方々にしっかりとお返しをして、社会を良くしていくために責任を持って行動します。そして次の人へ渡せるようにしたいと思います。

Point
- 苦労したことは、広報。（ギリギリまで集まらなかった）
- やってよかったことは、応援してくれる方がたくさんいたこと
- 気づいたことは、一人ではできないことも皆でならできる！

地域げんき最前線！ vol. 3

資源の有効活用を地域通貨で

新聞を無駄なく有効活用するために“地域通貨”を導入している団体が福岡県内にあります。それが「新聞環境システム研究所」です。今回は同団体が運用する地域通貨「ペパ」のしくみに迫りました。

NPO法人 新聞環境システム研究所

福岡市東区に拠点を置く NPO 法人。2001 年に設立。ごみを資源として有効活用する循環型社会をつくるため地域通貨ペパを導入し紙のリサイクル事業を展開する。新聞紙で作る紙えんぴつや紙バッグづくりなど紙を資源として有効活用するオリジナル講座も人気を集めている。
住所：福岡市東区名島 3-6-2
ホームページ：http://www.pepa.jp/

■地域通貨ペパって？

福岡市東区に拠点を置くNPO 法人新聞環境システム研究所が紙資源の循環を促すためにつくった地域通貨が「ペパ」です。ペパは英語のペーパーからの略称です。

会員は、回収指定場所のスーパーや施設に新聞紙を持って行き、ペパと交換します。回収場所は、福岡市、糸島市、久留米市、飯塚市、宮若市、行橋市の6ヶ所に指定の場所があります。新聞1kg につき1ペパが配布され、資源銀行に貯蓄されます。そして、30ペパ紙幣1枚につき80円の割引券として地下鉄やバス、直売所などで利用できます。

地域通貨ペパ

成功のヒケツ 1　企業の負担はゼロ！

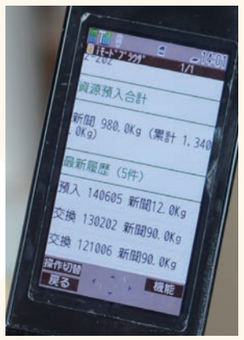
ペパの凄いところは企業の負担が全くないことです。使用されたペパは、団体が30ペパにつき80円で買い戻すことで割引額を負担するしくみ。受け入れ企業と使用者の両方に負担がかからないためサービスが途切れることなく長い間継続できています。

成功のヒケツ 2　じわじわ増やす

広報により一時的に新聞収集量が増えたことがありましたが、団体の許容量を超えてしまい対応ができませんでした。この経験を踏まえ、会員は口コミで時間をかけて少しずつ増やしています。

成功のヒケツ 3　独自のシステム

資源銀行というペパを管理する独自システムを開発。これにより会員は、ケータイやスマホ上で現在のペパの残高数やこれまでの総計、CO_2削減量を閲覧できます。



ペパを管理する独自システム

『紙をもとの木へもどそう』

新聞紙の20～30%は新品のまま読まれもせずに捨てられています。この資源が無駄に捨てられている現状に危機感を持ち、新聞が資源として有効活用できないかと考え、着目したのが地域通貨でした。

対象となる6ヶ所の地域で約 1700 世帯が活用しています。利用者が増えず普及が難しいとされる地域通貨活用の成功事例として広く知られています。加来理事長はペパを「リサイクルのためにわざわざ重い新聞を持ってきてくれた会員さんへのお礼」だと話していました。（取材／立花　祐平）

理事長の加来睦博さん